



YFA 育成年代U10-U18 保護者ガイドライン



選手にとって保護者とは

育成年代は、多くの人の関わりの中で人としての成長を果たします。そして、多くの人の関わりにはそれぞれの役割があります。

昨今、「子供とは友達関係」「子供とは兄弟関係」「親は子供のサポーター」などの言葉を耳にすることがあります。この場合、この子供には親の役割として成長に関わる人がいないこととなります。誰よりも深い愛情で厳しくも、優しくも関わる事が出来る親が存在しない。人としての成長に偏りや損なわれるものが現れる恐れはないのでしょうか。故に、保護者には選手に対して「親」としての関わりをお願いします。

YFA(山梨県サッカー協会)では、育成年代の選手に対して好きなサッカーを通して人としての成長を果たし、将来、多くの仲間と共に豊かな人生を歩むことを目的として指導を行います。だからこそ指導者は、決して利己的な判断で選手を指導することがあってはなりません。また、選手の自発性を培う為に「責める」ことは止め、「褒める」ことを増やし、健全な社会性を培う為に「叱る」べき時を見逃さない指導を行います。そして、児童期(~U12)までは「してあげる人」として多くのことを選手に学ばせ、思春期(U13~U18)からは、してあげることを少しずつ減らし、「見守れる人」として選手の自立性を培う指導を行います。

はじめに「YFA選手育成指針」について紹介し、Vo.1では「選手像」、Vo.2では「人づくり」について保護者の関わり方を確認します。



YFA 選手育成指針 2019-

めざせ 強豪県復活！ 一貫指導体制の実現

山梨県の目指す選手育成 4つの柱

ゴールを目指し、たくましく(球際に強く)チャレンジし続ける選手
~1対1の攻守にタフな選手へ~



攻守にたくましく(球際に強く) チャレンジし続けることができる選手の育成

Vo.1

Badな関わり方

- ・局面の出来ばえに一喜一憂してしまう声援
「抜かれた、失った、バカか、何やってるetc.」
⇒うなだれる選手、自信の喪失 ⇒プレーの停止
- ・審判に対するクレームボイス
「おーい、逆だろ、ちゃんと(笛)吹け、オフサイド! etc.」
⇒戸惑う、共鳴する選手⇒プレーの停止

Goodな関わり方

- ・できる限り、黙って見守る事に努める
→選手は内発的なモチベーションと自らの判断で成功や失敗を経験
⇒「自立心」と「責任感」の芽生え
- ・プレーの連続(攻守の切替)を推奨する言葉がけ
→抜かれたり、ボールを失ったがプレーを連続「ナイス、いいぞ」
⇒「ミスとはプレーを止めた時である」ことへの気付き
- ・審判へのクレームボイスは厳に謹むこと!!



リスペクト(礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿) が体現できる人へ

Vo.2

「人としての成長を果たした姿」とは、「自己の義務(やるべき事)を果たし、自分の為ではなく他者の為に判断や行動ができるようになること」です。このことにより、責任感があり氣遣いができる人へと成長し、多くの人と関わる事ができる魅力的な大人として自立を成し遂げることとなります。

よって、保護者(親)の役割とは、子供が自己の義務(やるべき事)を果たすことができる人、また、リスペクト(礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿)が体現できる人へと導くことにあります。

1) 自己の義務(やるべき事)を果たすことができる人への導き

- ①育成年代U10-U18の生活の場は学校です。児童・生徒として果たすべき義務は学校生活を整えることです。
→学業、学校行事、クラス活動(清掃・HR)の不備を見逃さない。
⇒学力(成績)は人間力のバロメーター(目安)
成績が高い: 計画力、実行力、継続力、責任感がある人
成績が低い: 言い訳が多い、気まぐれ、自己中心的な人

- ⇒「サッカー(やりたい事)は100%、
学業(やるべき事)には無関心・無責任(無頓着)」
これでは人としての成長もなく、大好きなサッカーにおいても本
当に苦しい場面で、責任を果たすことができない選手になって
しまいます。
⇒学校生活を整えて(やるべき事【義務】を果たして)、サッカーに取り
組む(やりたい事【権利】を主張する)姿勢を身に付けさせる。

- ②家庭生活において「できる事」を増やし、「やるべき事」として自ら
整えることができるようにする。
→「してあげる」(~U12)から「させる」関わり方へ(自立)
⇒面倒くさいができる人となり、着実な準備を持って物事に当たら
ることができる人へ成長させる。
- ③チームの準備や片付けを自ら進んでできるようにする。
「言われたらする」⇒「言われなくてもできる」への成長

④トレーニングにおいて選手がやるべき事をする姿の共有

Badな関わり方

- ・仲間の動きを後追いしながら、仲間と同じ動きをすることを
トレーニングの目的とする姿

Goodな関わり方

- ・指導者の説明からトレーニングの目的、オーガナイズ、キーファクター
を聴き取り(注意深く耳を傾け、動作をイメージする)、自らの
判断で動き出しができる姿

2) 礼節を尊ぶ姿が体現できる人への導き

礼節とは「礼儀」と「節度」である。「礼儀」とは人間関係や社会秩序を
維持する為に人が守るべき行動様式である。「節度」とは状況に相対し
た度合いのことです。

つまり、礼節とは「礼儀」を持って心から相手を思い、「節度」ある行動
をとることとなります。
このことを身に付けさせる為、「自利利他(じりりた)」「相手を幸せにする
ことで自分にも幸せがやってくる」の精神を子供に理解させて下さい。

- ①挨拶や返事をハキハキとすることができる。
・自身が「しました」ではなく、相手に明確に、快く「伝える」
- ②人の話を聴く(注意深く耳を傾け、自身の成長に繋げる)ことがで
きる。
・話しの音を聞くのではなく、話の意図をイメージ(映像)に転換
- ③正しい言葉遣いや正しい姿勢をとることができる。
・感謝、敬意が伝わる言葉遣い、姿勢
- ④周りの人のことを考えた行動をとることができる。
・人を不愉快にさせる行動を自ら抑止

3) 奉仕する姿が体現できる人への導き

奉仕とは報酬や見返りを求めず労働や行動を行うことであり、自分
のことでなく、他人のことを考えて行動する様のことです。
つまり、私心を捨てて、社会や他人の為に尽くすこととなります。

自身に関わる全ての人(家庭、学校、地域、チーム)の為に、でき
る事は自ら進んで行うことができる。

⇒「どうして、私がやるの?」ではなく、「私がやります」という
「自分のことはさておいて、人の為に一肌脱ぐ」思考を身に
付けさせる。

ハードワーク (努力する姿・諦めない姿) が体現できる人へ

「豊かな人生を歩む」ために必要なことは、目標達成という「結果」ではなく、目標達成に向けて整えるべき準備を行い(努力)、目標を達成するまで整えるべき準備を継続できる(諦めない)という「過程(プロセス)」にあります。

よって、保護者の役割は、目標達成という「結果」を追求しながら、子供が「過程(プロセス)」においてハードワーク(努力する姿・諦めない姿)を体現できる人へと導くことにあります。

そのために、保護者は試合結果や子供のプレー結果に囚われることなく、子供の「過程(プロセス)」におけるハードワーク(努力する姿・諦めない姿)の体現を指導・評価することに努めなければなりません。

- ①何事(サッカー、学校・家庭生活)にも一生懸命に取り組むことができる。
- ②出来ないことを出来るように直向きに取り組むことができる。
- ③声を出し、体を張って、ボールに関わり続けることができる。

保護者(親)としての姿

ここまで選手がサッカーについて身に付けるもの(ゴールを目指し、遅く(球際に強く)チャレンジし続ける選手〜1対1の攻守にタフな選手〜)、サッカーを通して学ぶべきもの(リスペクト<礼節を尊ぶ姿・奉仕する姿>、ハードワーク<努力する姿・諦めない姿>が体現できる人)を習得する為の保護者の関わり方について確認をしました。

そして、最も重要なことは保護者が伝える言葉ではなく、保護者が子供に関わる姿となります。

親自身が「損をしたくない」「得をしたい」であったり、「やるべき事【義務】を果たさずに、やりたい事【権利】を主張する」ような姿では、選手が人としての成長を果たすことは期待できません。「子供は親の鏡」です。保護者自身が生活の中で見本となってください。

子供を宝石に例えると「原石」です。「原石」を磨き上げる為に最も硬質(厳しさ)で最も柔軟(優しさ)な研磨材になり得る存在こそ「親」です。

指導者は、サッカーを通して子供「原石」が大人となり、大人が紳士「宝石」となるよう導きます。保護者には子供を磨き上げる為に必要不可欠、唯一無二の磨き手としてのご協力をお願いします。

リスペクトー暴力・暴言の根絶ー

誰もが安心・安全にサッカー、スポーツを楽しむために

誰もが安心・安全にサッカー、スポーツを楽しむために

サッカーに
暴力も暴言も
いらない!

自分を成長させてくれた、大好きなサッカーだから
誰にももやらいになってほしくない!

誰もが安心・安全にサッカー、スポーツを楽しむために

リスペクト宣言

お互いに、ありがとう!

自分自身や他人を尊重し、安全に楽しむために、暴力や暴言を許さず、お互いにリスペクトを宣言します。

選手、保護者、審判員、スタッフ、観客、地域の人々、みんなが笑顔でサッカーを楽しめるように、お互いにリスペクトを宣言します。

暴力や暴言は、サッカーの楽しさを奪います。安全に楽しむために、お互いにリスペクトを宣言します。

子どもからの招待状

今日子ども達の日。子ども達のために、とびきり楽しいゲームを用意しよう!

いろいろな協力の方法がある。コーチは7レフェリーは7人応援する保護者は7人。どのような大会にするかだって、とても大切。

子どもからの招待状

今日どんなプレーができるか楽しみです。練習でいろいろなプレーができるように頑張っています。

大好きなサッカーをできること楽しみにしています。

コーチの音が、やってくることを楽しみにしています。声を出して応援してください。

レフェリーがいてくれるのが、嬉しいプレーをすることができます。

みんなからの応援が、勇気をくれてくれます。

知ってもらいたいこと、質問があれば教えてください。

ただ、北方で試合に臨んで、勝利に輝けるまで、諦めず頑張ってください。

書いてほしいんだ、今日のプレーを。絶対に覚えて!

こどもエリアに入る前に!

ベストサポーターを目指そう!

保護者のサポート

今日は子ども達の日。ベンチは離れて、見守ろう。元気よく応援しよう。がんばる姿を応援しよう。自分なりの声、声援を出そう。相手チームも応援しよう。審判も一生懸命。

親がサッカーの大切な仲間。親のよいプレーに拍手を送ろう。

観戦でも立ち上がりプレーする子どもを応援しよう。審判はちゃんと近くで見、ゲームがスムーズに進むようにコントロールしてあげよう。

コーチは話を聞かせたい。話をうまうまい。サッカーからは、本当にいろいろなことが学べるのだから、それを理解しよう。

子どもは自分で準備。自分で行動。自分で片付け。どんな大人に育っていく子どもを。親も一緒に育もう。成長していく姿を見て嬉しむように。

親で子どもとたくさん話をしよう。子ども達の話を聞こう。楽しかった、エキサイティングだったゲームの話を聞こう。楽しそうだったら、ご自分でも身体を動かしてあげたいかな?

Smile OK!

では、どうぞお入りください。一緒に楽しみましょう!

保護者のみなさんへ

めざせ! ベストサポーター

みんなは、子どものために一生懸命。応援、励ましてくれています。子どもたちのために、親も頑張ろう。親も頑張ろう。子どもたちのために、親も頑張ろう。子どもたちのために、親も頑張ろう。

みんな大切なサッカーの仲間です。クラブの考えを聞いてみて。保護者の役割は何かを考えてみましょう。

みんな大切な仲間。サッカーを楽しむために、保護者の役割は何かを考えてみましょう。

サッカーを知っているお父さんへ。お母さんへ。親として見守ってください。レフェリーの判定を尊重しましょう。子どもたちのフェアプレーを応援しましょう。

フェアプレーにはグリーンカード。赤いカードは以下の理由でグリーンカードの処分を懸念しています。

「〇〇の子ども」も他の子どもです。

いつでもどこでも常に子どもをサポート

根本的な部分へのアプローチ。サッカーの練習だけでは足りない。練習場以外でできることを考えてみましょう。保護者としての役割を再確認しましょう。

保護者、自分自身。自分自身を成長させるには、自分の役割を再確認しましょう。

子ども達の成長。子ども達の成長を自分たちのサッカーの成長と結びつけてみましょう。

子どもが主役ーめざせ、ベストサポーター!

